

SPECIAL

心臓血管外科
部長

渡辺 祝安



ハイブリッド手術室が稼働しました

ハイブリッド手術室

高齢化社会の到来した現在において、高齢者に対する外科治療の低侵襲化はあらゆる治療分野において試みられています。心臓大血管領域においても大動脈瘤に対するステントグラフト治療の開発は、その適応範囲を大きく変えました。当院においても2009年より大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始いたしましたが、2014年3月27日念願であったハイブリッド手術室が完成し、第一例目の腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を施行いたしました。

ハイブリッド手術室とは、手術室と同等のクリーン度を保ち、室内に高性能の血管撮影装置が設置され、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術など詳細な画像をもとに手技をすすめる血管内治療を行う手術室です。当院のハイブリッド手術室対応の血管造影X線診断装置は最新鋭のPhilips社製Allura Xper FD20で、血管造影検査に加え事前に取り込んだCTの3D再構成画像とCアームによる回転撮影により得られるCTライクイメージを重ね合わせることで血管病変部が詳細に立体的に観察できるため、より正確な手術手技を可能にしています。

今後は開心術の困難な高齢者大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療である経皮的動脈弁埋込術(Transcatheter Aortic Valve Implantation:TAVI)、右小開胸での心臓弁手術(Minimal Invasive Cardiac Surgery:MICS)などの施行を目指しております。

今後とも当科での診療の適応のある患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にご相談頂ければ幸いです。

何卒よろしくお願いいたします。



ハイブリッド手術の様子



ハイブリッド手術室スタッフ